

講演会 & ライブ な日々 ②9

古川 秀明

『SC・SSW・養護教諭による新しい学校内対人援助システム物語』

第三話・実践例

①統合失調症

リフレクティングチーム：SC、SSW、養護教諭

相談者：中学二年女子茜（仮名）

来談の経緯：養護教諭（保健室の先生）に勧められて来室。

主訴：めまいと頭痛、腹痛が激しい。

最近階段から転がり落ちた。

吐き気が続いている

クラスで話をする人がいない

体調が悪くても、先生とお母さんは2日に一回しか早退させてくれない。

家族構成

母親（38歳）母方祖母（69歳） 本人（14歳）

*母方祖父は3年前に、父親は12年前に病死。

- この家族にはいくつかの特徴的なことがあります。
- 父親の死亡による母子家庭
- 母方祖母との同居
- 一人っ子長女
- これだけ目立つ特徴のある家族の家族療法は、割と扱いやすい。
- この時点で、すでに私の頭の中で、終結までの設計図が完成していました。
- ところが、この後のジェノグラム面接で、その設計図が吹っ飛びます。
- 茜から以下のようなことが語られました。

*実は父親は病死ではなく、警官に射殺された。

*理由は、父親は暴力団員で、覚せい剤中毒者。それで人質を取って郵便局に立てこもり、射殺された。

*母親も毎日父親に虐待を受けていて、右目を失明している。

*自分も母親から虐待を受けて、わき腹を果物ナイフで切られて、今でもその傷跡がある。

*授業中、ずっと声が聞こえる。怖い男の人の声で「皆殺しにしないと、お前が後ろの席の奴に殺されるぞ!」と脅してくる。だから先生に頼んで、席は一番後ろの席にしてもらっている。

*担任の先生は優しいけど、いつも先生の右肩の上に小さい悪魔が座って笑っている。(ゲゲゲの鬼太郎の目玉親父サイズとのこと)

*おじいちゃんは大好きやったけど、おばあちゃんとお母さんがおじいちゃんの首をロープで絞めて殺しました。それを私は隣の部屋で見っていました。

*いつか私もこの二人に殺されるかも知れません。

「私の考え」

- 思春期の女の子の語るファンタジーにしては内容がどぎつい。
- 主訴である、めまいと頭痛、腹痛が激しい。最近階段から転がり落ちた。吐き気が続いている。クラスで話をする人がいない。体調が悪くても、先生は2日に一回しか早退させてくれない。
- これらを考えると、クラスに馴染めていないことは明らか。
- 家族の情報は、にわかには信じがたいが、真偽を確かめる必要はある。
- 家族情報がすべて嘘であっても、家族に何らかのメッセージはありそう。
- もし家庭もしんどいのなら、クラスのしんどさも加われば、茜ちゃんは毎日相当しんどいだろう。
- まず、学校の持っている情報収集のため、コンサルテーション。
- メンバーは、私、養護教諭、担任、通級指導教室の教師の4人

「そこで得られた情報」

- ①友達はほとんどいない。
- ②昼休みはひとりで通級指導教室に遊びにくることが多い。クラスに居場所がない。
- ③家族の情報の真偽はわからないが、家族構成については間違いない。
- ④担任、通級指導、養護教諭、全員が茜のもの凄い話に付き合わされている。特に養護教諭は連日、もの凄い話を聞き続け、疲れていた。
- ⑤統合失調症の診断、発達検査など、医療対応は家族が「うちの子はどこも悪くない」と頑なに否定的でつなぎようがない。

- 医療に関しては、家族の理解を得られそうになく、家族の承諾もなしに勝手に医療対応などできないので、すぐには難しい。
- この時点で、私の選択肢はオープンダイアログしかありませんでした。

その理由は、

- ①茜ちゃんの「妄想」「幻聴」「幻覚」は統合失調症の陽性症状と同じで、医師による診断が難しいのなら、オープンダイアログは、もともとは統合失調症の治療からスタートしているので、有効に働くのではないか。
- ②茜ちゃんに関わる学校関係者は「担任」「通級指導教室」「養護教諭」「SC」と幅が広く、また、茜ちゃんはそれらの、大人とのコミュニケーションは割と上手く、良い関係性が取れている。
- ③この時点で「通級指導教室の教員」と「養護教諭」は私のオープンダイアログの研修会に参加しており、リフレクティングチームを組むことが可能で、即、実践できる体制にある。

- 以上の理由から、茜ちゃんに、これからはみんなで茜ちゃんの話聞いていきたいんだけど、どう？と提案すると、もの凄く喜んでいました。
- 結果的に中2の秋から、卒業までの1年半、合計16回のオープンダイアログによる面接をしました。
- 毎回、毎回、もの凄い話の連続でした。
- これらの現実離れした話を、オープンダイアログチームでバカにしたり、病人扱いしたりせずに、真摯に聞き続けました。
- そこでチームが気付いたのは、いろんなファンタジーを語っている時の茜ちゃんは、なんだか生き生きとしているということでした。
- それに、これらのファンタジーの世界を茜ちゃんは毎日生きているのだと思うと、凄く辛いことなんだけど、たまに出てくるBFの話とかは、そのファ

ンタジーが茜ちゃんを守っている面もあるかもしれないと思いました。

- しかし、そのファンタジーはすべて茜ちゃんの、頭の中だけの一人語り（モノログ）でした。
- それをオープンダイアログメンバーが、ポリフォニーにして、みんなで茜ちゃんを応援しました。
- そのことは茜ちゃんをすごく元気にしていきました。
- その証拠に、茜ちゃんは段々と次の面接を熱望するようになってきました。
- 効果はあるものの、私の面接は予約が多く、最低でも一か月は待たないといけない。
- フィンランドのやり方なら、24時間365日、本人が希望すれば、すぐにスタッフが駆け付けます。
- これは確かに有効だと思いますが、学校では無理です。
- しかし、月～金の学校のある間であれば、担任、通級指導教室の教員、養護教諭の誰かが、茜ちゃんの話聞く時間を作ってあげることが可能です。
- そこで、この3人が話を聞いていく体制を取りました。
- 特に養護教諭はすごくがんばらほりました。
- 毎日、授業が始まる前の1時間、茜ちゃんの話聞き続けてくれほりました。
- そのうちに、茜ちゃんの言動に変化が起こりだほしました。
- とても現実離れした話が10割だったのが、1割、1割五分と、少しずつ現実味のある話を混ぜるようになってきたのです。
- オープンダイアログを続けるうちに、茜ちゃんが「毎日眠れないし、しんどい。怖い声も聞こえるし、お医者さんに行きたい」と訴えほました。
- すぐに担任が家族に連絡ほしましたが、全く取り合っほくれほませんでした。
- そこで、お母さんにもオープンダイアログに参加ほしてもらえないか聞いてみたところ、それは承諾ほしてもらえほました。
- ここからチーム学校ががんばほりました！
- 本人、母親、担任、学年主任、通級教師、育成担当、養護教諭の7者によるオープンダイアログを実施ほされました。(SCはスケジュールが合わず不在ほでした)
- 何度も丁寧に粘り強くお母さんと話し合ほいました。
- この時大きな変化が起こほりました。
- 今までは、お母さんの意見には何でも「はい、はい」と従っほていた茜ちゃんが、この時ばかりは一歩も譲りほませんでした。
- 茜ちゃんの気迫と、チーム学校の熱意で、なんとかお母さんも病院に行くことを承諾ほ。
- このようにオープンダイアログは私(SC)がいなくても、適宜学校で実施

できます。

- もし私の出席を待っていたら、下手したら3ヶ月後になります。
- その後、お母さんに、地域の思春期外来に連れて行ってもらい、受診。
- 今の段階では統合失調症ではなく、妄想による幻聴との診断。ただし、経過によっては統合失調症に移行する可能性もあるので、要注意。
- 軽い睡眠薬だけ処方してもらい、学校での面接は是非続けるようにとの指示を受けました。
- その後のオープンダイアログには、母親も参加してくれるようになり、それと連動して茜ちゃんも日に日に元気になって行きました。
- 卒業を控えた頃、茜の妄想、幻聴はほとんどなくなり、地域の公立高校に進学しました。

「卒業前の最終面接での茜ちゃんの発言」

- 卒業したら、もう先生たちと喋れなくなるのが辛い。
- ずっと先生方と喋っていたい。
- 毎朝保健室で話聞いて欲しい。けど無理やんな。
- けど、なんとなく頑張れるような気がする。

「その後」

- 卒業後、一度学校に訪ねて来て、今の学校で友達もできて、凄く楽しい！と報告してくれたそうです。
- その後、思春期外来に通院することもなく、元気に通っているそうです。

「考察」

- もしオープンダイアログという技法を知らなかったら、統合失調症になっていた可能性が高かったと思います。
- 学校側が、オープンダイアログという、妄想、幻覚、幻聴の対応策を持っていたから、茜ちゃんの対応に落ち着きを失くし、途方に暮れるということがありませんでした。
- オープンダイアログこそ、チーム学校という考え方の切り札になり得ると思います。

今回の実践例はアディクション（依存症）です。
最後までお読みくださり、ありがとうございました。